

一、はじめに

近年、大学教育を取り巻く環境が激変している。そして、台湾では、少子化や大学全入時代などにもとない、経営難に陥る大学も続々と現れ、大学の淘汰・存亡問題が2015年に発生するとの声もある。さらに、高等教育機関は商業ベースで展開され、世界的な学生獲得競争が行われている。大学は「受験生を選ぶ時代から、大学が選ばれる時代へ」という戦国時代に入る。複雑化・流動化した社会における大学側の機能の再構築が求められる(郭, 2013)。それらの問題を解決するために、オープンコンテンツ、オープンリソース(OER; Open Education Resources)、オープンコースウェア(OCW; Open course ware)、オープンエデュケーションなどの概念が続々と提出された。

高等教育機関では、それに対応して、教育資源がどの程度公開されているかを明確にする必要がある。ここでは、オープン・ユニバーシティ(Open University)と名づけられた日本の放送大学(OUJ; The Open University of Japan)と台湾の国立空中大学(NOU; National Open University)を取り上げて考察を行ってみる。

台湾の国立空中大学では、学生はコースを自由に選ぶことができ、カリキュラムや学位を自分でデザインすることができる。それで、これまで一定の学生数数が確保されている。しかし、大学全入時代により国立空中大学の学習者数は、年々減少している傾向がみられる。それに対応して組織体制の改革以外、授業形態もこれまでのテレビ授業、ラジオ授業のほかに、オンライン授業、一般の教室授業(非假日班)¹が加えられたようになっている。

しかし、一般の通常大学の遠隔教育や生涯教育などの実施及び教育の国際的な競争の激化などにより、国立空中大学にとってはいままでも経験したことがないほどの大きな転換期を迎えていると言える。こうした内外の環境変化にどう適切に対応していく必要に迫られている。

一方、日本の放送大学は2007年に一度学生数が減ったが、2011年から学生数が増え、今は8万人ぐらい有する。その理由はいろいろ考えられるが、日本の放送大学にはそれに応じた改革が進まれているからであろう。

このようなことから、両大学の実態やその革新動向を把握することが極めて重要となる。もとより、これからの遠隔教育のあり方を真剣に考えるためには、OCWなどを取り上げて論じるのみでは十分なものとはいえない。しかし、両大学のあらゆる側面を、一度に網羅することは到底無理であり、ここでは両大学のOCWなどのコンテンツを中心に考察を試みる。

本論の研究課題は

- 1) オープンエデュケーションやOCWの動向を概観すること。

¹ 土・日以外にも、授業が実施されている。

- 2) 遠隔教育の実施を中心とする日本の放送大学と台湾の国立空中大学における OCW などのコンテンツのオープン化の実施現状を考察し、その研究成果を学生募集に苦戦する大学には有意義な示唆を提示すること。
- である。

二、教育のオープン化

2011年にJOCWは一般の人々を対象に、「大学のオープン化に関する世論調査」を行った。その結果によれば、「これからの大学の役割についての期待」という問いについては、40代以上の男性は「大学のオープン化」「共存社会実現への貢献」など大学が有する知見を社会に役立てていくことを強く期待していることがわかる。

また、日本の教育基本法の改正(2006年)や文部省の省令(平成2011年)においては、大学の社会的貢献や情報公開も、明確的に掲載されるようになった(福原, 2006)。教育資源のオープン化への期待は社会の潮流の1つになっているといえよう。

本節では、オープンユニバーシティの事例をみるまえに、まずグローバルなオープン化する世界の教育のオープンエデュケーションの動きや実態を概観してみる。

教育のオープン運動には、オープンソースなどの動きが活発に行われている。オープンエデュケーションとは、ウェブ上で教材や講義が無料で公開されることで、インターネットにアクセスさえすれば、いつでも誰でも新たな知を学ぶことができることである²。

オープンエデュケーションの代表例としては、米 MIT³の OCW⁴が著名である。現在は米欧を中心とする世界の大学では、多様なオープンエデュケーションのプロジェクトが展開されている。例えば、未来の学習者に、大学内にしか受講できない講義などは、OCW という概念のもとで、一般社会に公開することにしている。

具体的にはコース全体のシラバス、講義ノートなどの教材、課題、授業全体の音声、ビデオ等がオープンソースの実態であり、再利用可能な形にした

² オープンエデュケーションは「オープンテクノロジー、オープンコンテンツ、オープンナレッジの三要素からなり、ローカルな教育的知識などをオープン化し、グローバルに積み重ねていくことによって、教育の全体的な改善を目指すものである」(Iiyoshi & Kumar, 2008)。

³ 米国の Massachusetts Institute of Technology の略称。

⁴ OCW (オープンコースウェア) は Open Course Ware の略であり、「大学の正規講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」である。

ものがオープンコースウェアである。その広義の教育の形がオープンエデュケーションといえる（豊島，2010）。

オープンエデュケーションという概念の普及にともない、教え方や学び方が進化しつつあり、私たちはインターネットにアクセスすれば、世界の最先端の知に触れられるようになった。オープンエデュケーションは、台湾ではまだあまり知られておらず、これからのグローバルな世界で生き、さらに世界の知に貢献できるような人材の育成にとって、オープンエデュケーションという概念を知っておくべきであろう。

教育のオープン化という概念に基づく改革は各教育機関には様々な変容をもたらした。豊島（2010）では、情報へのオープン性と市場へのオープン性という基準を設定し、高等教育の分類モデルを試みた。分類には、情報のオープン性を「無償性」と代表して、市場のオープン性の代表を「インターネット的」な需要と供給として捉え、高等教育を(A)既存の高等教育機関、(B)株式会社型⁵、(C)コミュニティ型、(D)オープンエデュケーション型の4つの領域に分類されている（図1参照）。

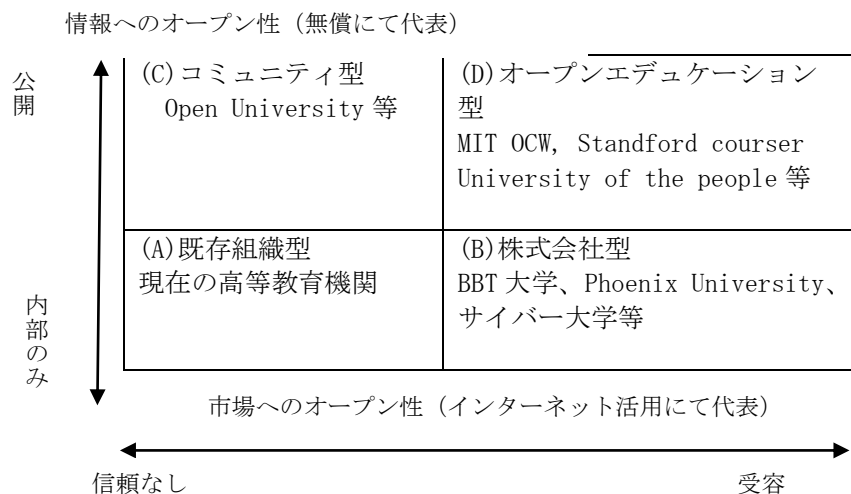


図1 高等教育の分類モデル（注：豊島（2010）より再作

⁵ 営利大学は株式会社型の高等教育機関の代表である。アメリカではすでに100年ぐらいの歴史をもっている。2000年代に入ってから、その数が激増し、今は高等教育機関を18.9%占めており、学位を授与する機関が800ぐらいある。フニックス大学(Phoenix University)、デブライ大学(DeVry University)は株式も上場している。

成)

今後、教育のオープン性はさらに変容していくであろう。オープンエデュケーションとは、世界のどこにいてもウェブで学ぶことができる。「オープンエデュケーション」が本格的に始まったことは、2001年である。それは21世紀の教育に革新をもたらすことになっている。アメリカのMITの画期的な動きとしてのOCWはオープンエデュケーションの代表的な例⁶である。以下、OCWについて具体的にみていく。

OCWの発展は2001年までに遡られ、当初MIT⁷はこれまでのeラーニングをビジネススペースで実施することは適切ではないと唱えた。今後MITの講義情報をウェブサイト上で世界中の人々に無料で提供し、OCWの立ち上げを発表した。

MITは2003年に正式的に500コースをウェブサイト上で無償提供をした。その後、続々とコースが公開され、現在2,000以上の講義コース教材を世界的に公開している。

また、MITは2003年から国内・外の他の大学に対してOCW活動を呼び働きかけ、2006年4月に国際コンソーシアムが組織された。よって、OCWはMIT単独の取り組みから世界レベルの組織になっている。当時参加メンバーは12カ国、88大学、アフィリエイト組織も11に及んでいる。2011年2月現在、45ヶ国・地域からの200以上の大学や機関が参加している⁸。

2007年にMITは国別にOCWへのアクセス率を分析したところ、アメリカが一番多く、インド、台湾、中国などの使用順序となっている。その結果から、台湾はOCWの活用に積極的に取り組んでいることが確認された。また、10年間で世界中からのアクセス利用回数が1億回に達している。そして、利用者の職業別の構成比率を見ると、自己学習者が一番多く43%、その次は学生42%、教員が9%、その他が6%の順となっている。

上述してきたように、ウェブの進化に伴い「教育のオープン化」の流れは止まらない。OCWは、大学教育情報の流通性を拡大し、相互交換と再利用を促すことは全体的な教育の質的向上につながるほか、学際的な交流の活性化も期待できる(葉, 2011)。

⁶ そのほか、「オープン・ラーニング・イニシアチブ」(OLI)、オープンナレッジ、iTunes Uなどが続々と生み出す。

⁷ マサチューセッツ工科大学の略称。

⁸ <http://www.ocwconsortium.org/members/members/master>

三、考察

まず（一）節ではオープンユニバーシティとしての放送大学と空中大学について概略し、次の（二）ではにその OCW の実施現状と課題について考察する

（一）オープンユニバーシティの概要

1. 日本放送大学の概要

放送大学（the Open University of Japan）は 1983 年に放送大学学園⁹によって創立された正規の通信制大学である。所定の単位を履修すれば、大学卒業資格（学士号・修士号）を取得することができる。放送大学では、設立当初、テレビやラジオを教育発信ツールとして関東広域圏向けに放送を始めた。その後、1998 年からはスカパーを利用して全国に放送し、2011 年からは BS デジタル波で放送することになった。今は、テレビ、ラジオ、印刷教材、BS デジタル放送、CATV、地上放送等を利用し、遠隔教育を実施している。

日本の全都道府県・57 ヶ所にある学習センター・サテライトスペースでは、スクーリングを行うほか、授業の DVD 視聴、学生間の交流など、学生支援の場としても活用されている。年間約 3,000 クラス以上が開講されている。開講科目は心理学や福祉などから、自然科学・外国語・経済や社会の仕組みに関するものまで全部で約 300 科目である。

履修者は幅広い科目から自分の興味のある授業科目を自由に 1 科目から選ぶことができる。そして、放送による授業では経験できない、実験・実習の授業も多数開講している。

放送大学では、学びたい人すべてがいつでもどこでも学習できる環境が整えられている。これまでに 130 万人以上の人々が履修している。2007 年 8 万人の在籍者がおり、その後一度（2008 年から 2010 年まで¹⁰）8 万人を下回ったことがあるが、2011 年から再び 8 万人台を超え、現在は 81,146 人の学生が在籍している。学習者数が増えてきたのは注目されるべきであろう。

2. 台湾の国立空中大学の概要

世界各国の教育機関にもグローバル化という波が押し寄せてきて、各教育機関には改革が加速されている。特に大学は国内のみではなく、海外からも優秀な学生を募集する競争が、欧米諸国をはじめ開始している。

台湾の国立空中大学(National Open University)は 1986 年に《大学法》に基

⁹文部科学省・総務省所管。

¹⁰ 2008 年度第一学期は 77,926 人、第二学期は 79,056 であり、2009 年度第一学期は 75,894 人、第二学期は 78,069 であり、2010 年度第一学期は 77,269 人、第二学期は 79,454 である。

づき、創立された。今は、テレビ、ラジオ、印刷教材、インターネットなどを利用し、遠隔教育を行っている。全部で人文學系（人文学科）、社會科學系（社会科学学科）、商學系（商業学科）、公共行政學系（公共行政学科）、生活科學系（生活科学学科）、管理與資訊學系（管理と情報学科）、通識教育中心（教養教育センター）7つの学科・センターが設置されている。

台湾全国の13ヶ所にある学習センターでは、スクーリングを行うほか、授業のDVD視聴、学生間の交流など、学生支援の場としても利用されている。学習者は128単位を履修したら、大学学士号がとれる。

学者数は100學年度第一学期は14433人、第二学期は13047人、101學年度第一学期は上.13106人、第二学期は11760人、102學年度第一学期は12172人である。一学期には、約130科目が開講されている。2011年から学習者数がへってきたのは関心を集めている。

（二）オープンユニバーシティにおけるOCW

1. 放送大学におけるOCW

日本では2005年5月に大阪大学、京都大学、東京工業大学、東京大学の4つの国立大学と、慶応義塾大学、早稲田大学の2つの私立大学によって、JOCW¹¹が立ち上げられた。放送大学は2009年8月にJOCWに加入した。日本では今は42機関が参加し、1800以上のコースが公開されている。最近では月間約40万人が利用しているとJOCWは報告している。

放送大学では、テレビ、ラジオのほか、「e-learning」などのウェブ学習、スクリーンなどの学習形態が実施されている。そのうち、**無料放送**なので、アンテナ・チューナーなどの受信環境を整えば、だれでも無料で好きな科目を視聴できる。

しかし、前述したように、教育のオープン化により、通常の大学は、面接授業以外にも遠隔教育の実施を始めている。また、インターネットを用いた世界各国のインターネットスクールなどの設立により、放送大学も世界的に募集し始めた。それで、2010年10月1日にウェブという強力な道具を活用した新たな学びのムーブメントであるOCWを公開し、オープンエデュケーションを試みている。放送大学のOCWは、2013年8月現在、テレビ授業科目、ラジオ授業科目のコンテンツをオープンし、新たな学びを提供している。

放送大学は教養学部と大学院からなっている。教養学部の授業科目は、基礎科目、共通科目¹²、専門科目¹³、総合科目から構成されている。そのうち、

¹¹ 参加大学は10科目の公開を最低条件とする。公開当初、結果的には、153科目公開された。

¹² 共通科目はさらに一般科目（人文系）、一般科目（社会系）、一般科目（自然系）、外国語

今現在、提供された OCW 科目の内訳は表 1 のようにまとめられる。表 1 に示したように、テレビ授業科目は 14 科目、ラジオ授業科目は 8 科目、合計 22 科目であり、そのほかに特別講義の 7 科目も公開されている。

表 1 OCW 科目の内訳

授業形態	科目	特別講義
テレビ授業科目	14	2
ラジオ授業科目	8	5

以下、表 1 の OCW 科目の詳細を授業形態別にみていく。

まず、テレビ授業科目は表 2 のように再整理できる。テレビ授業科目は合計 14 科目である。それはさらに共通科目 5 つ、基礎科目 2 つ、専門科目 7 つに小分けをすることができる。

全体的にみると、生活に必要とされる数学や社会などにかかわる知識、情報社会に必要とされるコンピューターリテラシーなどの科目が公開されていることが観察される。

表 2 テレビ授業科目の分類

授業形態	類別	科目名	合計科目数
テレビ授業	共通科目	社会学入門、中国語入門 I、入門線型代数、解析入門、計算事始め	5
	基礎科目	発音をめぐる冒険、初歩からの数学	2
	専門科目	コンピュータのしくみ、空間とベクトル、組織運営と内部監査、循環器病の健康科学、地域社会の教育的再編、市民生活と裁判、デジタル情報の処理と認識	7

そのほかに、「日本漫画と文化多様性～世界に拡散する絵物語コミュニケーション～【日本語版・英語版】」、「国際ボランティア学への招待」の 2 つの特別講義も OCW サイトに公開されている。

次に、ラジオ授業科目を検討してみる。ラジオ授業科目の詳細は表 3 のように再整理できる。ラジオ授業科目は合計 8 科目である。それはさらに共通科目 2 つ、基礎科目 2 つ、専門科目 4 つに分けられる。

全体的にみると、主に生活に必要とされる社会福祉などにかかわる科目が公開されていることが見とれる。

科目、保健体育科目にわけられている。

¹³ 専門科目はさらに生活と福祉コース、心理と教育コース、社会と産業コース、人間と文化コース、情報コース、自然と環境コースに分けられている。

表 3 ラジオ授業科目の分類

授業形態	類別	科目名	合計科目数
ラジオ授業	共通科目	人格心理学、教育心理学概論	2
	総合科目	環境と社会、社会福祉と権利擁護	2
	専門科目	日本文学の読み方、北東アジアの歴史と朝鮮半島、公衆衛生、心理・教育統計法特論	4

そのほかに、「ジャーナリストの父、タレントの息子～明治日本に貢献したブラック親子～」、「世界の名著を読む 国富論から学ぶ」、「人と動物のかかわり 1. 身近な動物」、「人と動物のかかわり 2. ネズミの話」、「地球上最大の動物、クジラ」の 5 つの特別講義が公開されている。

総括的にいえば、テレビ授業科目とラジオ授業科目を問わず、公開された科目は、概ねに生活上に必要とされる科目だといえよう。また、オープンされた OCW 科目には、専門科目が一番多く 11 科目 (50%)、その次は共通科目 7 科目 (31%)、基礎科目と総合科目はそれぞれ 2 科目となっている。

2. 国立空中大学における OCW

前述したように、アメリカの MIT は 2003 年に世界初の OCW サイトをスタートし、その後、世界中の高等教育機関にその活動が展開されている。台湾はその 4 年後の 2007 年 4 月に OCW を発足した。国立大学としては交通大学、台湾大学、政治大学、成功大学の 4 つの大学及び私立大学の長榮大学は TOCW の会員に加入した。

葉 (2011) の調査によると、TOCW の会員は 26 校となっている¹⁴。参加大学数は日本より 2 校も多いことが確認された。台湾の全大学数の 18% を占めていることから、日本の 3 % と比べると、参加校数が多かろう¹⁵としている。そして、公開されたものには、主に「単元資料 58」、「素材資料 10」「コース資料 10」からなっている。公開資料数は 78 コースに達している。日本の 24 校、約 2000 コースの公開状況と比べると、公開コースは比較的に低いほうであると指摘している。

2013 年 8 月調査現時点、国立空中大学では、表 4 のように 7 科目 OCW をオープンしている¹⁶。

¹⁴ 2013 年 8 月調査現時点、

¹⁵ 国立大学は 49 校、私立大学は 94 校、合計 143 校である。

¹⁶ 「華語文教學人員數位教學能力培訓課程」(中国語教職員のためのデジタル教育育成課程) は通常の科目とは異なり、教育部の委託で行われていたコースである。

表 4 OCW 科目の内訳

類 別	科 目 名
通識教育(教養科目)	西班牙語言與文化（スペイン語とその文化）、德國語言與文化（ドイツ語とその文化）、俄國語言與文化（ロシア語とその文化）、越南語言與文化（ベトナム語とその文化）、韓國語言與文化（韓国語とその文化）、21 世紀公民素養大師系列— 自然與生活（21 世紀公民素養シリーズ—自然と生活）
人文学科科目	生活日語（生活日本語）

以上見てきたように、国立空中大学の場合、TOCW サイトで公開された科目は比較的に少なく、僅か 7 科目である。そして、「21 世紀公民素養大師系列— 自然與生活（21 世紀公民素養シリーズ—自然と生活）」以外はいずれも言語学習に関する科目である。即ち、国立空中大学の OCW 科目は言語学習に関する科目が中心となっていることが確認される¹⁷。

しかし、TOCW サイトに科目を公開する以外、国立空中大学は台北市政府と連携を結んでいる。台北市政府の「愛台北 市政雲服務（台北を愛する、市政府の iCloud サービス）」¹⁸サイトにも国立空中大学の授業を無料で公開している。公開科目は表 5 のように分類・整理できる。誰でも自由にアクセスして授業を聴講することができる。

表 5 に示したように、「管理と情報学科」では 1 つの科目しか提供されていないが、他の学科ではそれぞれ 6 つの科目、全部で 6 つの領域にわたる 31 科目が公開されている。

表 5 「愛台北 市政雲服務サイト」での公開科目

学科名	科 目 名	合計
人文学科	國文文選（中国文学）、台灣小説（台湾小説）、美学（美学）、台灣民間信仰（台湾民間信仰）、韓非子選讀（韓非子文学）、文學與人生（文学と人生）	6
社会科学学科	社会生活民法（社会生活民法）、成人心理衛生（成人心理衛生）、社會政策與社會立法（社会政策と社会立法）、行政法（行政法）、刑事訴訟法（刑事訴訟法）、教育概論（教育概論）	6
商業学科	消費者行為（消費者行為）、人際關係與協商（人間関係と交渉）、商業簡報理論與實務（商業プレゼンテーション理論と実務）、品牌經營管理（ブランド経営管理）、創	6

¹⁷ これらの言語科目は教育の補助金を受けて作成されたものである。

¹⁸ http://www.cloud.taipei.gov.tw/web_index をご参照。

	意與創新管理（創造革新管理）、商用數學（商用数学）	
公共行政学科	行政法基本理論（行政法基本理論）、公共管理（公共管理）、兩岸立法制度（兩岸立法制度）、組織行為（組織行為）、勞動政策（労働政策）、政治學（政治学）	6
生活科学学科	健康管理（健康マネジメント）、兒童及少年福利（兒童及び少年福祉）、殯葬管理學（葬儀マネジメント）、臨終與後續關懷（死とフォローアップのケア）、休閒農業與民宿管理（レジャー農業と民宿マネジメント）、嬰幼兒健康護照與活動設計（幼兒健康パスポートと活動の設計）	6
管理と情報学科	企業人力資源管理（人的資源管理）	1

以上検討してきたように、国立空中大学は、OCW サイトより「愛台北 市政雲服務（台北を愛する、市政府の iCloud サービス）」サイトに積極的に科目を公開していることが観察される。

4. おわりに

以上、ユニバースティーと名付けられた日本の放送大学と台湾の国立空中大学における教育のオープン化の現状を明確するために、主に OCW のコンテンツを中心に分析考察を行ってきた。その研究成果は学生募集に苦戦する大学には、何かの示唆を与えたと思う。

以上の考察によると、下記のようなことが読み取れる。

- (1) 考察結果によると、両校はともに情報のオープン度を高めていく新たな萌芽が確認された。授業科目をコミュニティに公開し、学生を獲得していこうとする姿勢も見られる。しかし、両校はともに Open University と名づけられてはいるが、情報公開にはまだ閉鎖的だといえよう。その公開範囲は、大学全体からすると、公開講座や授業の一般公開などにより一部分しか実施されていない。情報のオープン化は、そのような部分的開放のみではまだ十分とはいえない。
- (2) 放送大学では、テレビ授業科目とラジオ授業科目を問わず、公開された OCW コンテンツは、概ねに生活上に必要とされる科目だといえよう。それに対して、国立空中大学は第二言語学習に関する言語科目の公開が中心となっている。
- (3) 放送大学の場合は、JOCW サイトで公開された科目は合計 29 科目である。国立空中大学の場合、TOCW サイトで公開された科目は比較

的に少なく、僅か7科目である。それをみると、日本の場合、世界に積極的に発信していることがわかる。

- (4) 国立空中大学は、OCW サイトより「愛台北 市政雲服務（台北を愛する、市政府の iCloud サービス）」サイトに積極的に授業科目を公開している。「管理と情報学科」では1つの授業科目しか提供されていないが、他の学科ではそれぞれ6つの授業科目、全部で6つの領域にわたる31科目が公開されている。
- (5) 今度は授業科目全体を考察するにはいたっていないが、OCW コンテンツを考察してみると、台湾の空中大学は諸外国のオープン・ユニバーシティが社会人の再教育訓練機関としての機能を重視して市場の需要に応じて「愛台北 市政雲服務（台北を愛する、市政府の iCloud サービス）」サイトに科目を公開しているのに対し、日本の放送大学は、あまりそうした動きがみられないようである。

日本の大学にはOCWを大学の経営戦略の一つとして位置付ける大学もある。例えば、早稲田大学の中長期計画における教学戦略の「教育と学修内容の公開」では、授業のみならず、学生のレポートや論文なども含めて公開することにする。それらを利用して独学するうちに、「本格的に学ぶ」という学習意欲が湧いてくる。いわば、学習募集の「呼び水」としてオープンエデュケーションを活用している。

「オープンエデュケーション」が社会の潮流の1つになっている。大学教育はユニバーサル段階に入り、高等教育の貿易は普及しはじめている。国内・外の学生を獲得するための競争が激化している。他の種類のサービスとあまり変わらないという教育変革への認識が必要であると思われる。

参考文献

日本語の部分

- 飯吉透 (2010) 「高等教育 2.0: 知識基盤社会とオープンエデュケーション」
『メディア教育研究』第7巻第1号、S1—S8
- 梅田望夫、飯吉透 (2010) 『ウェブで学ぶオープンエデュケーションと知
の革命』筑摩書房
- 浦達也 (1990) 「放送教育を再活性化するコミュニケーションの場」『放送教
育』1990 年 9 月号 52—55
- 倉田敬子 (2011) 「オープンアクセスの理念と現状」『メディア教育研究』第
7 巻第 2 号、42-49
- 鈴木克明 (2004) 「これからの放送教育のあり方～デジタル化時代における放
送教育のあり方～」平成 16 年度第 56 回北海道放送教育研究大会 記念講
演資料
- 豊島雅和 (2012) 「オープンソース運動としての高等教育におけるオープン
エデュケーションー伝統的高等教育の IT 化への進展」『埼玉学園大学紀
要. 経営学部篇』
埼玉学園大学
- 福原美三 (2006) 「日本におけるオープンコースウェアの現状と課題・展望」
『情報管理』49(6)、301-312
- 文部省 (1968) 『学校放送の利用 (第 9 版)』 日本放送教育協会
- 山田恒夫 (2011) 「大学における教育コンテンツ公開システムの将来」『メデ
ィア教育研究』第 7 巻第 2 号、50-61
- 葉淑華 (2011) 「オープンコースウェアをめぐって」『2011 年應用日語教學國
際學術研討會』台灣應用日語學會海報發表

中国語の部分

- 陳東園 (2012) <<開放趨向下日本放送大學媒體教學策略的啟示>>。空大人文學
報 21 期。台北。129-154 頁。
- 郭添財 (2013.8.7) <<台灣教育的十字路口-談大學的困境與因應>>。國政分析、
財團法人國家政策研究基金會 [http://www.npf.org.tw/post/3/12563\(2013.8.15\)](http://www.npf.org.tw/post/3/12563(2013.8.15))
- 馬郁凝、柯皓仁 (2012) <<以關注本位採用模式探討大學教師參與開放課程之
研究>>。圖書資訊學刊、第 10 卷第 1 期、117-153

参考ウェブサイト

JOCW サイト：<http://www.jocw.jp/>

国際コンソーシアムサイト：<http://www.ocwconsortium.org/>

MIT OCW サイト：<http://ocw.mit.edu/>

TOCW サイト：<http://www.tocwc.org.tw/about.php>

国立空中大学：<http://www.nou.edu.tw/>

放送大学<http://www.ouj.ac.jp/>